

日本サンゴ礁学会第22回大会 公開シンポジウム

サンゴの記憶

生き物であるサンゴは生物学の対象であるとともに、石の骨格をつくり積み重なって礁を造る地学の対象でもある。サンゴとサンゴ礁は、過去の地球環境の変動との関係を記憶している。

本シンポジウムでは、こうしたサンゴの記憶を読み解く研究をいくつか紹介する。数千年・数万年後の地学研究者は、現在のサンゴとサンゴ礁にどんな地球環境変化の記憶を読み解くのだろうか。

2019
11月8日(金) 17:00-19:00

北海道大学総合博物館1階 “知の交流”
参加費無料

プログラム

1. 茅根 創 (東京大学) 「サンゴ礁：サンゴが造った地形」
2. 渡邊 剛 (北海道大学) 「サンゴが記憶する地球環境変動」
3. 江崎 洋一 (大阪市立大学) 「サンゴであるというサンゴの記憶」
4. 狩野 彰宏 (東京大学) 「造礁動物はどうやって進化したのか」

主催：一般社団法人日本サンゴ礁学会

後援：北海道大学総合博物館

東京大学海洋教育センター



日本サンゴ礁学会大会 第22回大会 のご案内

2019
11月9日(土) - 11日(月)

北海道大学工学部フロンティア応用化学研究棟

一般参加可。参加費が必要です。

詳しくは「日本サンゴ礁学会」で検索し、大会案内のページをご覧ください。